

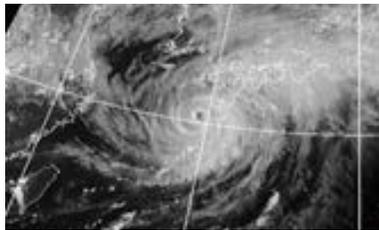
さいがい  
いろいろな自然災害

地震や津波以外にもいろいろな自然災害があります。どんな災害があるのでしょうか。

## 1 台風の特徴とその災害

暖かい南の海で発生した熱帯低気圧が周りの水蒸気を取り込み、すさまじいエネルギーを持つようになります。そのうち、中心付近の最大風速が1秒間に17.2m(時速約60km)以上になったものを「台風」とよびます。

台風は上空の風のえいきょうで動きます。台風は、強い風と大量の雨をとまなうため、風水害や土砂崩れなどの災害を引き起こします。



上空から見た台風の様子  
(気象庁HP)



大雨によるがけくずれ(長崎県南島原市)  
写真提供(国土交通省)

## 2 集中豪雨の特徴とその対策

集中豪雨とは、せまい地域に短時間で百mmから数百mmも降り続く激しい雨のことをいいます。雨を降らせる雲が同じ場所で発生し、そのまま発達をくり返すために起こります。

6月から9月にかけての雨の多い季節には、早めに気象情報を知ることや避難対策を考えておくことが大切です。自分の住んでいる地域ではどんな水害が起こる危険性があるのか、また洪水のときの避難方法や準備物も調べておきましょう。

## 3 雷発生のおくみと落雷

急激に雲が発達することにより、雷が発生しやすくなります。雷のもとには「静電気」です。雲の中にできた氷のつぶが、上昇したり落下したりするときたがいにこすれ合って「静電気」が発生します。そして、雲が大量の電気をたくわえると、ふつうは電気を通さない空気を伝わって、地表に電気が放電されます。これが落雷です。

雷が発生したときにゴロゴロと音になるのは、電気の通り道となった空気が急激に熱せられてぼう張し、まわりの空気を激しくふるわせるからです。



雷の発生(気象庁HP)

## 4 竜巻の特徴

上空で発達した雲の下に、急激な上向きの空気の流れ(上昇気流)が発生することがあります。これが強くなったときに「竜巻」になります。うず巻きの大きさや移動する距離は台風よりもはるかに小さいのですが、竜巻で起こる風は台風よりもずっと強いのです。ものすごい勢いで家屋や車、木々を飛ばし、大きな被害をもたらします。

アメリカでは、年間1000個以上の竜巻が発生します。日本の竜巻の年間発生数は、平均13件(1991~2006年)ですが、単位面積あたりの発生数で見ると、あまり大きな差はないと言われています。



竜巻の発生

## ? 考えよう

○仙台市の過去の災害をP62の年表で調べましょう。また、P32~33で台風や雷、竜巻から安全に身を守る方法を確認しましょう。